



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 22 年 3 月 9 日(火)

第 6 回東北風景街道協議会及びセミナー編

3月9日、第6回東北風景街道協議会及びセミナーが仙台市のエルパーク仙台にて行われました。当NWからは能登祐子会長、渡辺千明准教授、佐藤康弘(国交省能代河川国道事務所)が参加しました。

主なプログラムは下記のとおりです。

- H21 登録団体への登録証交付・登録団体の今後の抱負
- 記念撮影
- アンケート実施に関する意見交換
- セミナー講演  
講師：堀 繁東大アジア生物資源環境研究センター教授  
内容：東北の風景街道が取り組むべきこと  
～風景街道の魅力づくり～
- 東北風景街道協議会委員と各パートナーシップとの意見交換会

東北地方整備局の三浦道路部長からは、「活動が始まり 2 年半が経過、本協議会も 6 回目となった。今年度は 3 団体の加入があり東北では合計 20 団体となったが、東北ではまだ大成功している団体は無い。それぞれの地域でより多くの感動を伝えてほしい。」との挨拶がありました。

藤崎会長からは「自分の住んでいる地域、地元をどの様にして賑やかにしていくかをテーマに皆さんは活動しておられるが、来られた方々が非常に明るい気分になってお帰り頂けるよう、がんばってください。」との挨拶がありました。

その後、新規 3 団体(十和田奥入瀬浪漫街道・奥州街道と縄文の道・黄花紅の東むつ湾ルート)への登録証の交付と 3 団体の代表による抱負の紹介があり、記念撮影を行いました。

前回の協議会で、今後、各団体のパネル 1 枚を作成して各県の公共施設等に展示を行い、日本風景街道に関するアンケートを一般の方々を対象に行う予定であるとの案内がありましたが、今回、会場にはパネルが展示され、参加者でアンケートの試行を行いました。

アンケートに関しては、委員の方から、日本風景街道をどの様に知ったかを確認しておくこと、ルートのどのような点に興味を持ったかを確認することで、魅力あるコンテンツ作りに反映できるのでは？といった意見がありました。また、立派なポスターが出来たので、団体に配布してほしいといった意見もありました。



協議会全体の様子。後方に各団体を紹介するパネルが展示されています。



当NWはいつも最前列席です。



挨拶をされる三浦道路部長(左)と藤崎会長(右)



新規登録団体の 3 団体(中央)と協議会委員の記念撮影



こんなことあったよ! のしろ白神ネットワークの活動レポート

セミナーでは、2月15日ののしろ市民まちづくりフォーラムで基調講演頂いた堀繁先生が「東北の風景街道が取り組むべきこと ~風景街道の魅力づくり~」と題してお話をされました。

現在の日本の風景街道は、良い風景があったとしても止まろうかと思っている間に通り過ぎてしまい、『ドライブ アンド ドライブ』のずっと走り放しの状況であり、アメリカのような『ストップ アンド ドライブ』となるためには、

- ①車で通り過ぎただけでは記憶に残らないので、車から降りて地域をじっくり見てもらうようにする。
- ②地域の人との交流の場を作る。
- ③活動拠点を道路のそばに持つ。①②③は一箇所になっている方が良い。
- ④持ち出しばかりのボランティア活動は続かないので、活動拠点で飲食の提供を行い、風景街道で儲けることを考える。沿道に花を植えてきれいな道を造るような今の活動では誰もお金を使ってくれない。

また、魅力的な場所の作り方の6ポイントも教えていただき、これらは今後、店舗や道の駅・休憩施設を造る際に、是非参考にしたいと思いました。

意見交換会では各委員から以下のご意見を頂きました。

小林滋男委員(日本旅行業協会東北支部 支部長):それぞれの街道で交流・体験・学ぶの3つのキーワードで活動を整理してみてもどうか。ストーリー・歴史・暮らしを語るボランティアとお客様の学びのニーズがわかることが大切。

志賀秀一((株)東北地域環境研究室 代表):活動に対する考え方のコンセプトがしっかりしていなければならない。

鈴木伸一(河北新報社 営業本部 事業部 事業部長):マスコミへの投げ込み資料は、見出しを付けて目立つようにする。イベントはニュース性を高めて情報発信をする。

会場を仙台商工会議所に移して行われた交流会では、各団体のPRが行われました。当NWは、ここでもトップバッター。注目度があがります。

東京出張から駆けつけた佐々木先生を助手に、能登会長が秋田スギの葉を使った染め物の説明を行い、ピンク色を出すためにスギの葉から作った灰を使ったアイデアを披露し、参加者の関心を集めました。その材料は常盤ときめき隊の提供であることもしっかり宣伝していました。

また、来能者にいつも大好評の能代の一品「一時」も披露し、他団体が紹介する名産に負けない人気を得ていました。

文: 佐藤 康弘



清水寺を例に景観について説明される堀先生。今回も具体的でとても分かりやすいお話でした。

魅力的な場所の作り方

- 「ぜひここから眺めてもらいたい」ところで停まって楽しんでもらう。そのためには以下がポイントに
- ① 自己領域を持つ休憩スペース
  - ② 視方向は立ち上がりのないつま先下がり
  - ③ もてなしの3種の神器
  - ④ 何より、さくら
  - ⑤ 花よりダンゴで手軽な飲食の提供
  - ⑥ おしゃれで安価で外から見えるみやげもの
- 以上は道の駅や街中の活性化拠点でも同じ

堀先生による、魅力的な場所の作り方6つのポイント



資金稼ぎのための開発商品、秋田スギの葉と灰を使って染めた「シャツやハンカチを披露・説明する能登会長。



外は仙台には珍しい大雪ながら、交流会は熱く盛り上がりました。